

●図書委員のオススメの一冊

東野圭吾 著 「容疑者 x の献身」 文藝春秋刊

「べんてん亭」で働いている「花岡靖子」と娘の「美里」は、アパートに二人で暮らしていた。そこへ元夫「富樫慎二」が疫病神のように彼女たちの前に現れては暴力を振るっていた。靖子と里美は富樫と大喧嘩の末、殺してしまう。今後の成り行きが呆然とする母子に救いの手を差し伸べたのは、隣人の天才数学者・石神だった。彼は自らの理論的思考でこの事件にかかわっていく。その後死体は旧江戸川で発見され警察は捜査を続けるも、あと一手の所でことごとくズレが生ずる。そこで草薙刑事は友人の天才物理学者・湯川に相談を持ちかける。

この本は、映画化もされ「ガリレオ」シリーズの人気作品。天才物理学者 VS 天才数学者の対決です。本を読んでいくたびに次のページが気になります。本を読んでも、すごく面白いのですが、映画版もとても迫力のある作品です。ぜひ読んでみてください。

●図書委員のオススメの一冊

福井晴敏 著 「終戦のローレライ」講談社刊 ジャンル 架空戦記

作品紹介 この本の舞台は終戦間際、あきらかに敗戦寸前の日本。そんな日本に崩壊したナチスドイツから戦利品として保有していた全長 110m、水上速力 18 ノット、水中速力 8.5 ノット武装、20.3 センチ連装砲、前面固定魚雷発射管×8、後部旋回式魚雷発射管×1 という世界にも類を見ないフランスの超巨大、重武装潜水艦シュルクーフ（日本名伊 507 潜）を譲り受けた。そして、軍令部第一部第一課長、朝倉良橋大佐から、伊 507 潜の乗組員に課せられた使命、それは、広島・長崎に次ぐ第三の原子爆弾の投下を阻止すること。

しかし、最終目的地のテニアン島周辺はもちろんのこと、日本近海には伊 507 潜を追ってきた「しっこいアメリカ軍」が潜んでいる。そして、同乗した SS 士官フリッツ・S・エブナーが回収を急ぐ謎のシステム「ローレライ」を搭載した特殊潜航艇「ナーバル」また、朝倉大佐が「ローレライ」で目論む真に目的とは。

「しっこいアメリカ軍」が伊 507 潜を追い詰め、絶体絶命なときに、絹見艦長がとった戦略とは。そして、伊 507 潜は無事にテニアンにたどり着き、第三の原子爆弾の投下を阻止できるのか。

福井晴敏が描く緊張と死闘の架空戦記が、今を生きる私たちに「終戦とは何か」と問いかける。